

公共図書館におけるモバイル端末に向けた情報発信

横田 夏海

総務省の『平成 26 年通信利用動向調査報告書（世帯編）』によれば、インターネット利用者の端末使用機器の種類は、モバイル端末の比率が 82.2%と最も高くなっている。モバイル端末とは、携帯電話・PHS、携帯情報端末（PDA）及びタブレット型端末、スマートフォンのことである。このような状況の中で、今後の公共図書館では、パソコンで閲覧する Web ページの作成だけでなく、モバイル端末で閲覧できるコンテンツの充実や情報発信が必要になってくると考えられる。

そこで、本研究では、日本の公共図書館を対象として、公共図書館のモバイル端末用サイトを調査し、モバイル端末に向けた情報発信について分析・考察した。そして、携帯サイトとスマートフォン向けサイトの現状を踏まえた上で、モバイル端末用サイトのガイドラインを作成した。研究方法としては、文献調査とモバイル端末用サイト調査を用いた。

調査項目は、A 群：携帯サイト／スマートフォン向けサイトの有無、B 群：パソコン版からの情報、C 群：表示内容、D 群：OPAC（蔵書検索）、E 群：デザイン、F 群：ナビゲーション機能、G 群：ログイン機能、H 群：その他の全 42 項目である。調査対象は、『日本の図書館：統計と名簿 2015』（日本図書館協会、2016）に掲載されている 47 都道府県、23 特別区、20 政令指定都市、47 中核市、関東甲信越の 213 市・98 町・32 村の中央館の計 480 館とした。調査期間は、2016 年 7 月 12 日から 10 月 25 日の 106 日間である。

研究の結果、以下の事柄が明らかになった。

- ・調査対象の 480 館中、携帯サイトを公開している公共図書館は 378 館（78.8%）、スマートフォン向けサイトを公開している公共図書館は 207 館（43.1%）であった。携帯サイトの保有率とスマートフォン向けサイトの保有率には、35.7 ポイントの差があった。
- ・PC 版サイトから、携帯サイト情報を得られるのは 359 館（95.0%）、スマートフォン向けサイト情報を得られるのは 130 館（62.8%）であり、32.2 ポイントの差があった。
- ・公共図書館の連絡先は、携帯サイトでは 172 館（45.5%）、スマートフォン向けサイトでは 43 館（20.8%）が提示していた。OPAC は、携帯サイトを保有している 371 館、および、スマートフォン向けサイトを保有している 207 館が、全て提供していた。
- ・携帯サイトにおいて、文字の色は「1 色のみ使用」が最も多く、186 館（49.2%）であった。文字の大きさは、「統一されている」館が 316 館（83.6%）であった。「背景色」があったのは 35 館（9.3%）であった。
- ・スマートフォン向けサイトの中で、オリジナルデザインのサイトは 162 館（78.3%）であった。ボタンの大きさは、指でタッチしやすいように拡大するなど工夫されている館が 171 館（82.6%）であった。
- ・ログイン機能は、携帯サイト提供館では 378 館中 363 館（96.0%）、スマートフォン向けサイト提供館では 207 館中 161 館（77.8%）、それぞれ整備していた。「サイト内におけるログイン機能の説明」は、携帯サイト提供館では 378 館中 201 館（53.2%）、スマートフォン向けサイト提供館では 207 館中 102 館（49.3%）、それぞれ備えていた。
- ・スマートフォン向けサイトの整備は携帯サイトに比べて発展段階にあるといえる。図書館は、多様化していくモバイル端末に対応し、出来得る限り差のない情報発信を目指す必要がある。そのためにも、各端末に適応し、適切なコンテンツを備えたモバイル端末向けサイトを公開する必要がある。各端末の利用者が使いやすいように、コンテンツを充実させ、使いやすさを追求していくことが求められている。

（指導教員 大庭 一郎）